

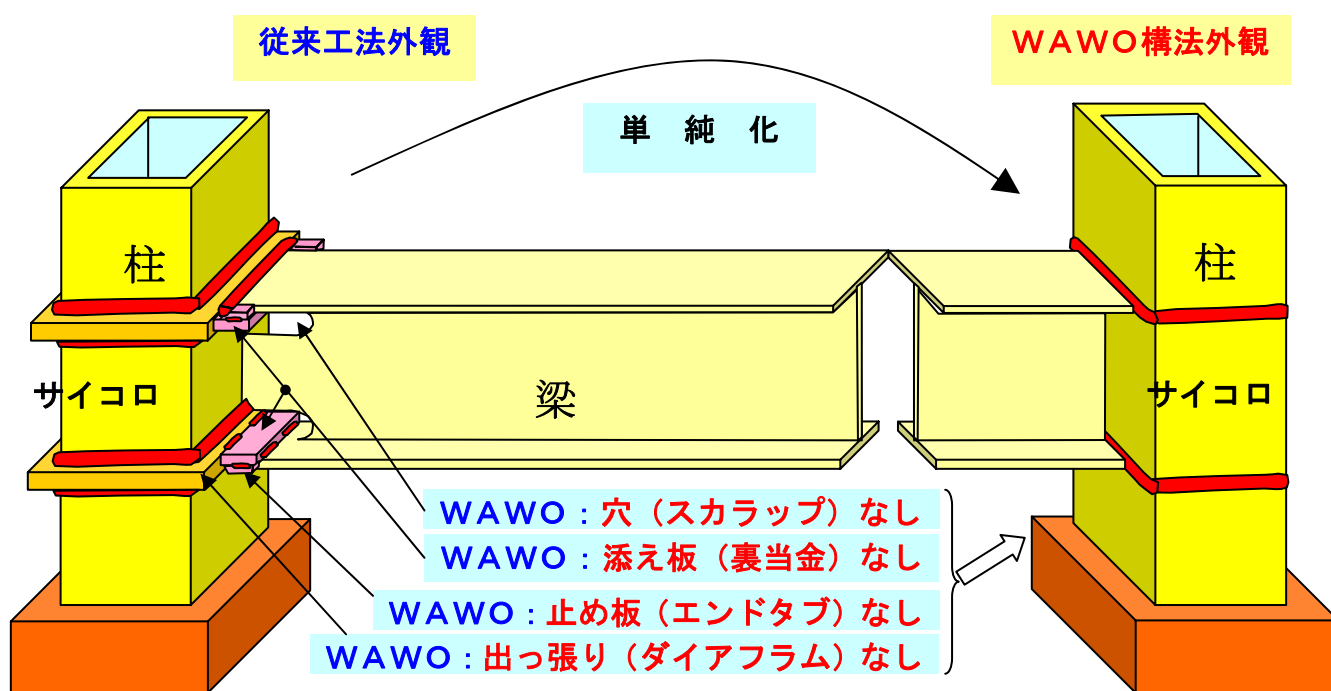
WAWO構法は、従来の溶接方法と開先を組み合わせることで鉄骨柱梁接合部を改良したもので、構造上の課題ではなく、溶接のディテール（細部）に相当するものです。それでいて、従来の工法よりも大きな耐震強度が得られます。

1 構造がシンプルで、部品数が少ないから、応力・歪み集中が縮減できる。

WAWO構法では、スカラップ・従来の裏当金・エンドタブ・ダイアフラムの出っ張りがない。

一体化工法では、柱梁接合部（サイコロ）当たり梁2本接続として、サイコロの短管・ダイアフラム2枚・裏当金12枚以上・エンドタブ8個以上を、無垢（中実）のサイコロ1つで置き換えることができる。複雑な構造を単純な構造にできる。

スロット工法では、柱梁接合部（サイコロ）当たり梁2本接続として、裏当金12枚以上・エンドタブ8個以上省略でき、通しダイアフラムを柱の外側から溶接できる内ダイアフラムに置き換える。ダイアフラムの重量が30%縮減できる。



外観からもわかるように
WAWO構法は、構造がシンプルで部品数が少ない